神戸商工だより

2018 11
vol.755

昭和45年7月20日第三種郵便物承認　平成30年10月25日発行　(毎月25日発行)

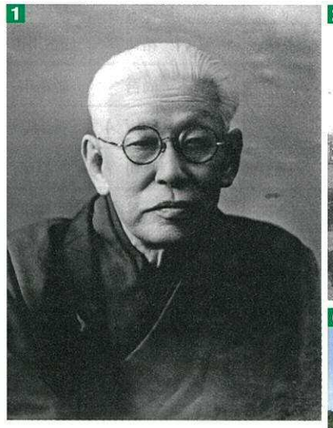
▶特　集　神戸医療産業都市 20周年

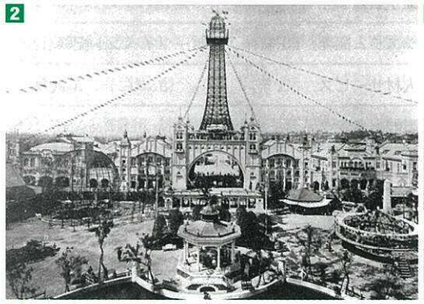
▶講演録　タマノイ酢の人が輝く経営術

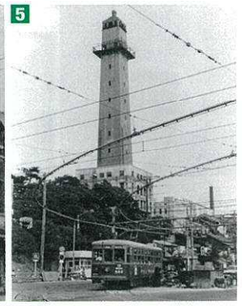
今月のテーマ

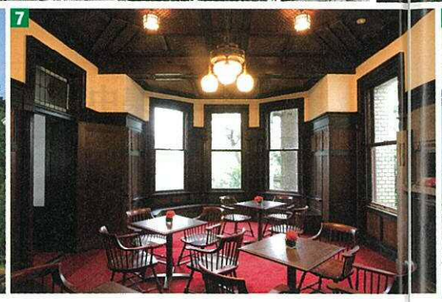
設楽（しだら） 貞雄（さだお）

新開地の初代聚楽館（しゅうらくかん）や神戸タワーを設計した設楽貞雄（1864－1943）は、神戸の近代風景を描いた建築家である。他方、初代通天閣や千日前の楽天地という商都・大阪のランドマークを設計したことで知られ、さらには下関山陽ホテル、姫路駅、日本毛織本社、京都電灯会社の建物も手掛けている。









1 晩年の設楽貞雄
2 初代通天閣とルナパーク（1912年頃）
3 通天閣と正面のルーフガーデンは4人乗りロープウエーで結ばれた
4 威風あるたたずまいの初代聚楽館は神戸っ子の自慢だった
5 高さ90m、展望台からの眺望が人気を呼んだ神戸タワー
6 豊かな表情を持つ旧西尾類蔵邸の外観
7 旧西尾類蔵邸1階の待合室の内装は手の込んだ天井装飾が目を引く
8 1929年に竣工した長瀬産業㈱大阪本社ビル

〈参考文献〉
・山内直一編『兵庫県人物列伝』興信社出版部　1910年
・山川茂雄編『京阪神ニ於ケル事業ト人物』東京電報通信社　1919年
・坂本勝比古著・増田彰久写真『商都のデザイン』（日本の建築明治大正昭和5）三省堂　1980年
・石田潤一郎『関西の近代建築－ウォートルスから村野藤吾まで』中央公論美術出版　1996年
・『日本建築協会80年史』日本建築協会　1999年

〈写真協力〉
設楽貞樹（1）、大阪府公文書館所蔵（2、3）、神戸市文書館（4、5）、バリューマネジメント㈱（7）

住宅から駅、工場まで幅広い作品群

須磨離宮公園の西、緑の山を背景に瀟洒な屋敷が建っている。1920年に完成した旧西尾類蔵邸。貿易商であった施主の好みだろうか、張出し窓やアーチ窓を配した端正な洋館だが、屋内に入れば書院造りの和室も備えた和洋折衷建築となっている。現在は「神戸迎賓館　旧西尾邸」の名称でレストランやパーティーができる館として営業しているが、外観・内装ともに建築時の意匠がよく保たれているとして、2010年に兵庫県の有形文化財に指定された。

旧西尾類蔵邸を設計したのは設楽建築工務所。所長の設楽貞雄は、大正・昭和期に関西で五指に入るとされた建築家である。

設楽は福島県出身。東京の工手学校造家学科の第一期生で、卒業後は日本土木会社へ入った。関西へやってきたのは、1892年に宮内省内匠寮（たくみりょう）に採用されて帝国京都博物館（現：京都国立博物館明治古都館）の工事に参加したからで、これ以降、関西を活動基盤とする。1896年、宮内省から桑原政工業事務所に移り、山口半六の下で働いた。山口はフランスのエコール・サントラルに学んだ建築家で、最晩年に兵庫県庁舎（現：兵庫県公館）を設計したことでも知られる。設楽は、山口が事務所を開設した際に支配人兼所長代理となっている。

1900年に山陽鉄道（現：ＪＲ西日本山陽本線）に入社し、駅や工場、ホテルなどを手掛けた。大正時代に初代通天閣や千日前の楽天地、神戸タワーといったアミューズメント施設を次々と任されることになったのも、山陽鉄道で関わった多種多様な仕事の経験が買われたのかもしれない。

1907年、設楽は神戸市下山手通6丁目に事務所を構えて独立した。

時代やまちを象徴する建築

独立早々、設楽の事務所は山陽鉄道の牛場卓蔵や村野山人から住宅の設計を依頼されている。翌年に鐘淵紡績高砂工場、日本毛織加古川工場、鳴尾速歩競馬場など、1909年には大阪堂島米穀取引所、1910年に京都電灯会社、神戸電灯会社を設計。これらに続いて、1911年から13年にかけて受注したのが、大阪・新世界である。設楽が設計した初代通天閣はパリのエッフェル塔をイメージさせる鉄塔で、西洋世界への憧れを見事に造形化して人気を博した。また、遊園地のルナパーク、劇場を備えた楽天地などの設計も担当し、「大阪の新名所」をつくり上げた。同じ時期、神戸では聚楽館の設計に従事し、「西の帝劇」と評された文化の殿堂を1913年に竣工している。1924年には通天閣をしのぐ高さ90mの神戸タワーが設楽の設計で完成し、新開地は一層にぎわいを増した。

大正から昭和初期にかけて旺盛な活動を見せたが、1933年に古希を迎えた設楽は事務所を閉じて引退した。40年余りにわたる業績では、通天閣や聚楽館のように時代やまちそのものを象徴する建築物をつくる幸運に恵まれた。その際立った活動について、神戸芸術工科大学名誉教授の坂本勝比古氏は、優秀なスタッフの登用を指摘している。設楽は、大学や高等工業学校で専門教育を受けた技術者、海外留学経験者を積極的に採用して仕事を任せた。また、1917年に設楽は関西建築協会（のち日本建築協会）の創立メンバーの一人となり、終始協会の活動を支えた。多くの作品を世に送り出すとともに、人を育てた建築家でもあった。